

推進校別中間報告書

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
ひろしまけんりつふくやまみょうおうだい 広島県立福山明主台 こうとうがっこう 高等学校	ひろしまけんふくやまし 広島県福山市 みょうおうだい 明主台二丁目 93	084-952-1110	1057 名	

2 研究課題

生徒が自ら課題に取り組み、共に考え生きようとする道德教育の推進
高等学校における道德教育の充実

3 研究主題とその設定理由

研究主題は「自立心，規範意識，協調性を育てる道德教育の推進」である。

設定の理由は、本校の「校是」である、「信愛，自立，剛健」と「学校教育目標」である 1.お互いに信頼し，敬愛することのできる感性豊かな人間を育てる。2.自らを律し，主体的に行動できる知性豊かな人間を育てる。3.理想に向かって努力することのできるたくましい人間を育てる。このような生徒を育てるために，すべての教育分野でどのようなことをどのようにして実践するかにある。

4 第1年度の研究の特色及び概要

全ての教育活動であいさつとマナーの向上を図る。

このことについては，毎朝の校門での生徒と教職員によるあいさつを実践した。

各授業において，あいさつ，授業のマナーなどの徹底を行った。

月一回の生徒集会において，この点を意識した指導を行った。

各教科の学習活動，総合的な学習の時間，及び特別活動を通じ，豊かな心をはぐくむ教材の開発を行い，授業研究を行う。

このことについては，すべての教科・科目の内容において，どの単元にどのような道德的な内容が含まれているかを調査し，その項目が道德のテーマのどれにあたり，道德的関連価値のどれにあたるか，学習指導要領との関連はどうであるかなどを明確にした。

また，実施時期についても明確にし，教科の「学習プログラム」を作成し，国語とLHRの研究授業を行った。

各教科・科目でいろんな場面で道德の視点を取り入れた教育実践が行われた。

総合的な学習の時間では，各学年ごとのテーマにそって「自己や社会について考える」ことを道德の視点を意識しながら，取り入れた。

職場訪問や大学訪問，出張講義，職業分野別ガイダンス，修学旅行の自主研修，オープンスクールへの参加などを通じて自己の生き方などを考えさせた。

5 第1年度の研究成果及び課題

今年度の成果と反省をふまえたうえで、来年度（平成17年度）の「研究課題」、「研究主題」を中心にすえた道徳教育を推進していくことが来年度の課題である。個別にみた成果と課題は次のとおりである。

全体計画

本年度は、「すべての教育活動における道徳教育の目標を設定するとともに各教科・科目、分掌などとの関連を明らかにした全体計画」を作成した。来年度は生徒の実態をつかみながら、この計画をどのように実施していくか、各分野での具体的な計画が必要となる。そのためにはこの計画を全教職員の具体的な共通認識にする必要がある。（添付資料参照）

教科の道徳教育

各教科・科目において教科書における道徳の各テーマに関連する教材・単元や道徳教育の視点にたった教材の選出もできた。その実施時期も設定した。この「学習プログラム」をもとに来年度は各教科・科目において計画性をもって、少しでも多くの実践を行う。なお、国語科においては今年度すでに少なからずの実践が行われており、他の教科もこれに習う必要がある。（添付資料参照）

LHRにおける道徳教育

「正義感」を共通テーマとして各学年で取組んだ。計画段階では十分な検討ができなかったが、次のような成果と課題が得られた。

成果

- ・考えやすいテーマで、思ったことをよく書いたり、発表していた
- ・自分の問題として考えようとしている生徒が多かった
- ・他の生徒の考えを聞くことができ良かった
- ・何とかしなければならないという思いをもった生徒が多かった
- ・グループでの話し合いは初めてだったが、順番に意見を出し合うなど、全員が参加していた
- ・教材については、生徒に投げかけやすいものであった
- ・最初からしっかり考えるという雰囲気があり、よく考えていた
- ・真剣に資料を読み、熱心に意見を書き、指名すれば必ずなんらかの自分の意見を言えた
- ・人の意見を聞き、よく反応していた

課題

- ・質問項目が多かった。時間に追われる感じがした
- ・資料が生徒にとって少し遠い中味であった
- ・もっと身近な部分からアプローチした方が良かった
- ・この資料を使い切るためには、もっと積み上げがなければ難しい

- ・突発的でなく、計画的に流れをつくって段階をふんでやれば、もっとよくなることは間違いない
- ・もう少し質問項目を絞って、考える時間をもう少し増やした方が良い
- ・意見を書いたり、述べたりすることはするが、本当に真剣に感じたり、考えたりするといった部分で不十分なところもある

このような本年度の成果と課題をもとに来年度は、より計画的に、各学年のテーマを決定し前期、後期各一回実施する予定である。

研修会

本年度は、3回の校内研修会を行い、それぞれの研修において得た多くのことを、その後の実践に生かした。

第1回校内研修会 文部科学省教科調査官 柴原弘志先生

第2回校内研修会 福山平成大学教授 新本豊三先生

第3回校内研修会 関西学院大学教授 横山利弘先生

(研修、講演内容は別添資料参照)

来年度も引き続き、より実践に役立つ研修会を予定している。

また、校外の研修会も指定校3校の協議会はもちろんのこと、近隣の中学校や小学校での研究会、研修会にも積極的に参加し、実践力を高めるよう努めた。

学校行事などにおける道徳教育

学校をあげてのあいさつ運動の実施。毎朝の校門での生徒と教職員によるあいさつ運動の実施。各授業におけるあいさつの徹底。生徒集会におけるあいさつやマナーの指導。生徒集会での話に道徳の内容をとりあげるなどの実践を行った。より一層計画的に道徳の視点を取り入れて取り組む必要がある。

総合的な学習の時間

各学年のテーマにそって「自己や社会について考える」ことを道徳の視点をできるだけ意識しながら取り入れた。しかし、道徳の視点を意識した指導内容としては不十分であり、この点の改善が来年度の課題である。また、三年間を見通した綿密な計画も必要である。(本年度の実践の一部は添付の資料参照)

推進態勢

校長、教頭、教育研究、生活指導、環境美化、広報、教科担当者(計8名)で「徳の道推進会議」をつくり一年間活動し、一定の成果をあげてきたが、機能的に活動できたとは言いがたい。特に「推進会議」の時間確保、全教職員の意識統一に課題が残った。

6 参照できるホームページアドレス

<http://www.fukuyamamyoodai-h.hiroshima-c.ed.jp/>